

議員と話す会報告書

開催日時	令和7年11月 10日(月) 19時00分～21時00分	
開催場所	嬉野地域振興局 大会議室	
班名	1 班	
出席議員	代表者 <u>西口 真理</u> ① <u>森本 哲生</u> ② <u>野呂 一平</u> ③ <u>松本 一孝</u> ④ <u>殿村 峰代</u> ⑤ <u>山本 芳敬</u>	
	司会進行者	野呂 一平
	報告者	松本 一孝
	記録者	松本 一孝 西口 真理 山本 芳敬
参加人数	27名	
意見・要望等 主な質疑応答	別紙のとおり。	
代表者の所感	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 濱口 高志 様

令和 7 年 11月 14日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

1 班

代表者 西口 真理

意見交換

【 テーマ：地域づくりとコミュニティセンター化 】

【開催形式】

ワークショップ形式

【意見等】

- ・自治会長の負担が大きすぎる。知識のない農業関係なども対応している状況である、もっと市が協力して欲しい。
- ・市長は子育て一番宣言と言われているが、嬉野で子育支援がみえてこない嬉野の魅力づくり、発信が必要である。
- ・高齢化の最大の課題である、住民の足の確保が重要である。
- ・島田地区は中山間部に位置するが都市計画区域にある。
田んぼ等の獣害被害が多く、反収も上がらず営農意欲もなくしてしまい、東部地区へと移住している状況である。本庁の担当者にも現地に出向いてもらい獣害対策への柔軟な支援をお願いしたい。また、ため池の改修にも評価点が低いため地元負担が多額になり、改修が出来ない状況である。一律的な補助対応ではなく地域の実情に応じた補助金の運用を検討いただきたい。
- ・中原地区は、来年度から中原コミュニティセンターとなり指定管理に移行するが自治会役員であっても理解されていない。殆どの住民は、現状とどう変わるとか何が出来るようになるのかも分かっていない。
- ・物販が出来るようになるとの事だが、余り魅力がないのではないか。
- ・今後、人口減・高齢化が進み人材不足が深刻になる。今の役員が引退した後、指定管理を継続していくか心配。
- ・嬉野地区では、中川など中心地に人口が集中していて、山間部では自治会、住自協の運営もやっていけなくなる。
- ・指定管理になれば、物販や貸館の収入が得られると言うが、山間部ではメリットが

ない。

- ・高齢化・人口減により、特に山間部では役員や消防団等地域組織のなり手がない。自治会を脱退する世帯も増えている。災害時等に自治会は必要。人材育成、報酬アップなど、市の支援を。
- ・「子育て一番」をもっと充実しアピールすることにより、若者に選んでもらえる松阪市にできないか。
- ・中心部以外では交通手段がなく、車がないと生活できない。交通手段を考えて欲しい。
- ・山間部での獣害は深刻。地域で出来ることには限界がある。獣害対策の支援を。獣友会も高齢化し、人数も減って来ている。報酬アップ、育成に市として取り組んでいただきたい。
- ・全国的に深刻になっている熊被害。獣友会が今の状況では対応出来ない。早急な対策を。
- ・市街化調整区域であり若者などが入ってこない。何とかならないか。
- ・中原地区では駅があるから公共交通を通していないと聞いた。駅から遠い方も見えるその理由ではおかしくはないか。

【課題・問題点】

- ・少子高齢化、人口減少、役員のなり手不足で自治会運営が困難になっている。
- ・空き家の増加や退会者も多く、今後の自治会維持を含め将来が不安である。
- ・民生委員児童委員のなり手もない状況である。
- ・嬉野地区の子供支援が見えてこない
- ・公共交通を充実させる。
- ・コミュニティセンター化が住民に理解されていない。
- ・獣害対策について一律の補助でなく地域の実情によって支援する。
- ・人口も地域差があり、地域に見合った対策が必要。

【解決案】

- ・田舎をよく知ってもらえるよう松阪マラソンのコースを持ってくる。
- ・議員を活用し実現に向け提言してもらう。

【主な質疑応答・意見等】

問 コミュニティセンター化になるが事務のなり手がいない場合は。

答 市が直営で支援する方法もある。

問 来年度からの指定管理化に向けて進めているが、市の言う事が当初からコロコロ変わり、混乱している。条例化されて、指定管理が必須と思っていたが、旧本庁内はほとんどが直営のまま。直営のままでも良いのか。

答 市は市全域で指定管理化を目指しているが、地域によって条件が整わず難しい所もある。いつまでにと期限は定めないとのこと。

問 実際に指定管理に向けて事務を進めているが、人件費、施設管理費はこれでやっているか、労務管理などの事務が難しいなど不安が多い。もっと市の支援をお願いしたい。

答 市や連合会のサポートを求めていく。

代表者所感

沢山の方に参加いただき、有意義な意見交換が出来た。嬉野地区は、全域でコミュニティセンターの指定管理化に取り組んでいただいており、各地区の住民自治協議会の役員さん、地域のリーダーさんの参加が多かったため、現場での取り組みの課題やご苦労など、貴重なお話、地域への熱い思いを聞かせていただいた。

現在の役員さんが「自分達は頑張るが、引退した後、次の世代が心配」とおっしゃった通り、若い世代にどう繋げるか、人材育成が一番の課題であると痛感した。

コミュニティセンターの運営、獣害対策、高齢化、担い手不足‥地域づくりの課題は山積みであるが、地域で出来ることは限られている。行政と地域の連携、行政のサポートの強化が必要。議会としても、住民の皆さんとの声を丁寧に聞き、政策に繋げていきたい。

議員と話す会の様子

